

## 鳥居きみ子の紀行文

「百穴の道の記」原稿  
1901年『上総のやどり』  
金尾文淵堂、1906年4月『土俗学より観たる蒙古』  
大鑑閣、1927年2月

『蒙古行』読売新聞社、1906年10月

徳島県出身の人類学者である鳥居龍蔵の妻 鳥居きみ子(1881—1959)は、20代の中頃に子どもを連れて龍蔵とモンゴルのフィールドワークを行い、伝統的な生活に関する貴重な記録を残した女性人類学者の草分けとして高く評価されています。そのようなきみ子の文章は、読者を旅路にあるかのような気分させる紀行文として、当時の人々を魅了しました。

この展示では、きみ子の活動の概要と、彼女が著した代表的な文章を紹介します。

2025 12.2 火 ▶ 2026 3.22 日

- 展示場所 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 常設展示室 第2展示室内
- 開館時間 9:30 ~ 17:30
- 休館日 毎週月曜日、年末年始休(12月29日[月] ~ 1月4日[土])、  
1月13日[火]、2月24日[火]  
ただし1月12日[月]、2月23日[月]は開館
- 観覧料 通常の常設展観覧料  
(一般 200 円、高校・大学生 100 円、小・中学生 50 円)  
※祝日・振替休日は無料 ※土・日曜日は高校生以下無料  
※その他各種減免あり



新婚時代の鳥居夫妻